

2 豊総総防第 77-3 号
令和 3 年 1 月 27 日

豊前市監査委員 初山 吉治 様
豊前市監査委員 岡本 清靖 様

豊前市長 後藤 元秀
(総務課)

定期監査等の結果について (回答)

令和 2 年 11 月に実施されました定期監査等においてご指摘いただきました事項について、下記のとおり回答いたします。

記

1. 公金取扱事務の適正管理について

市長交際費や災害義援金等の現金取扱に関して、現金の取り扱いを複数人で対応していることが確認できない事項が見受けられた。

平成 30 年 2 月 2 日豊前市公金横領事案に係る再発防止策検討委員会が発出した「公金取扱事務の改善報告について」に添付された公金取扱事務の留意点を徹底し、適正管理に努められたい。

【措置内容】

今後は、「公金取扱事務の改善報告について」に添付された公金取扱事務の留意点を徹底し、適正管理に努めます。

市長交際費については、現金取扱に際し、係長と係員が金額の確認をし、出納簿に確認印を押すことにしました。

災害義援金については、係長と係員が金額の確認をし、出納簿に確認印を押すとともに、口座入金、口座からの現金引出し、日本赤十字社への振り込みまでの一連の事務を係長と係員が一緒に行うことにしました。

2. 補助金の適正管理について

補助金額の確定、事業内容及び事業効果に関する審査は交付対象団体から実績報告書が提出されることにより行われるものである。

しかし、この実績報告書の支出経費に補助金の使途内訳が不明瞭なものが見受けられた。今後は昨年度末に制定された補助金交付要綱を遵守し、補助金の使途内訳や活動内容などについて実績報告書を精査し、適正な補助金額について検討されたい。

【措置内容】

令和元年度末に制定した補助金交付要綱を遵守し、補助金の使途内訳や活動内容など補助金交付団体に対し、適正な補助金の活用を求めるほか、実績報告時において十分な精査を実施し、適正な補助金交付に努めます。

3. 備品の有効活用について

無人航空機（通称ドローン）に関して、管理する部署のみで使用するのではなく、全庁的に使用できる体制を整え、費用対効果を高める努力を行うべく、無人航空機の有効活用を図られたい。

防災行政無線戸別受信機に関して、約 2100 台が配布されていない状況である。受け取られていない市民の方に対して様々な方法で周知を行い、防災行政無線戸別受信機の有効活用を図られたい。

災害時用備蓄食料に関して、賞味期限切れとなった備蓄食料が見受けられた。食品ロス削減の観点からも、災害時用備蓄食料の更新に当たっては、管理台帳を活用し賞味期限切れとなる前にフードバンクへの提供を行うなど、災害時用備蓄食料の有効活用を図られたい。

【措置内容】

無人航空機（ドローン）の活用については、他部署より空撮等の依頼があった場合、防災安全係職員が対応していますが、無人航空機の有効活用を考慮した際、ご指摘のとおり、全庁的に使用できる体制を整備することが効果的と考えられますので、今後無人航空機の有効活用について調整を図りたいと考えます。

防災行政無線戸別受信機（防災ラジオ）に関しては、防災のみならず、新型コロナウイルス関連等、市からの重要な情報発信ツールのひとつとして活用しております。

まだお受け取りになられていない方についても、市ホームページ、広報また地域での防災教室などのイベント等を含め、住民と接する機会において、防災ラジオの必要性、有効性を周知し、配布率向上に努めます。

災害時用備蓄食料については、ローリングストックを行いながら備蓄に努めています。現在、地域のふれあい教室、小学校での防災教育時に、家庭で必要な備蓄の考え方等食料備蓄品のサンプルを例にとり、説明を行いながら有効活用を行っています。

賞味期限の近づいた備蓄食料は、各種防災講習時に活用するほか、食品ロスを削減するため、社会福祉協議会と協議しフードバンクへの提供を行うなど、食料の有効活用に努めます。